

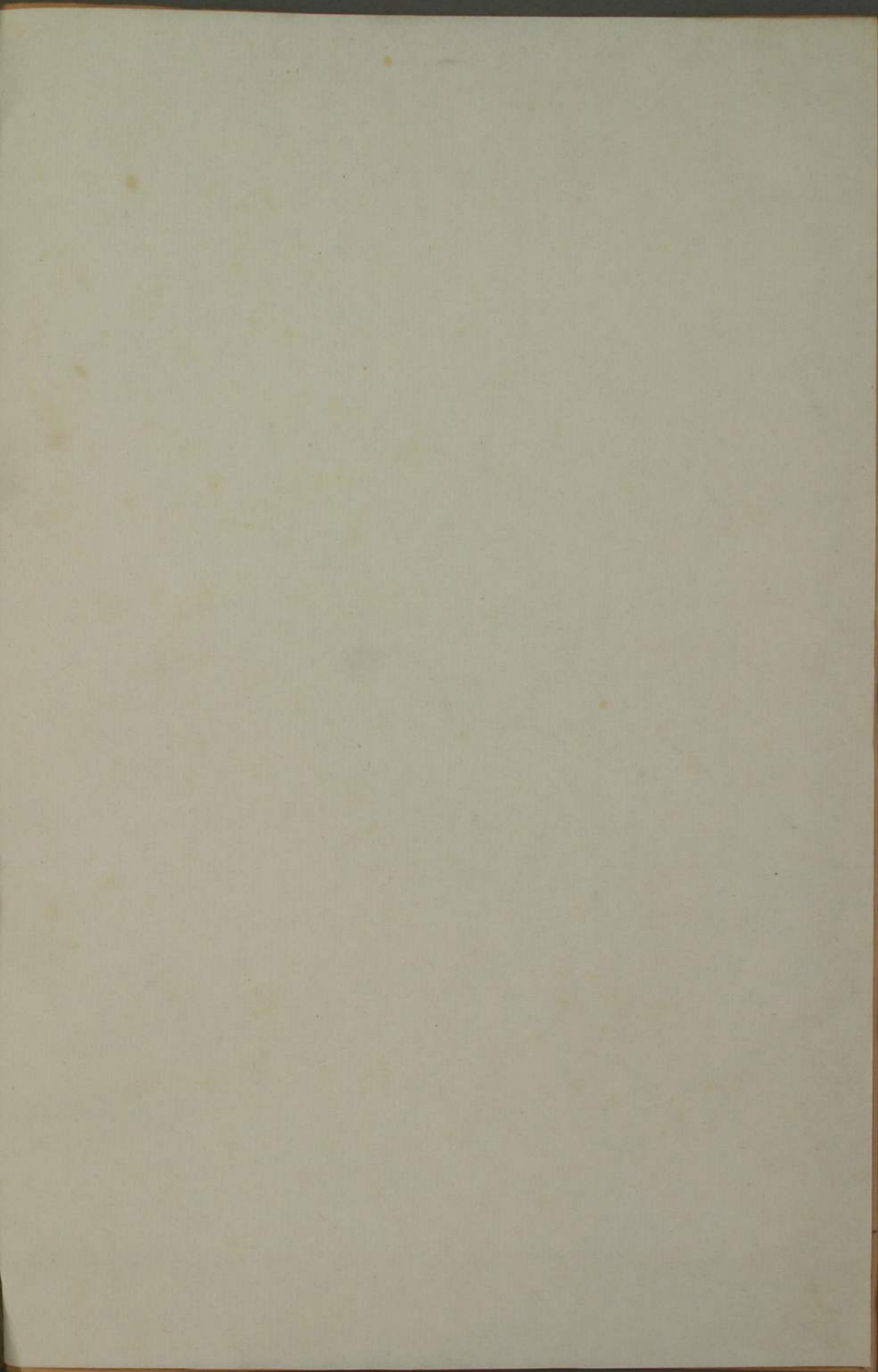


泊船集
下

4414
3



Handwritten text on a blue textured cover, including a large stylized character and the character 下.



へ5
4414
3

泊船集卷之五

芭蕉菴拾遺稿

維陽 風國撰次

久々入部

し

島田塚平氏、詔事有

馬のくのハの川



信濃路よきよき

雪もろくも獲屋の薄刀

刀一落

夜着ハ重し一吳天ハ雨

虫句ハ延室乃比乃吟

あゝあゝ

六や

六や 乃身ハ外 蘇御

道乃記ハ 虫句

ありらるる 後ハ 虫句

てぬま 虫句

巻頭 五哥 仙有久乃

目と云は 虫句

風や頼もき痛切ハ 虫句

千川亭

おろよほつたもんとや
多の龍り

贈酒堂

詞書市乃卷三二八

難波津や田ふりの婦こ

夕〜〜

深川冬を乃感

櫓乃幸波を〜〜
し和乃比乃由し

落葉

あまのりるるあまのりる
神乃落葉

あまの権現も

宮ノ下秋名をちの葉川

明照寺

百年乃氣あやをいふれ
と洛葉

油下

おひ

多の〜染や〜

東護

志心〜

振堂杖雁あ〜
東護

御命講

御命講也油乃也〜

大根

小坊〜
大根

埋火

埋火や〜

道善下

埋火しき遊や泪乃者欠

あゝ他

あゝ他や白交障乃

其子ほの柳より白

事々

事々葉や粉糵乃

大津下

三尺乃山七山角乃本乃葉乃

如

霜乃竹抄

白下

口切

支梁亭

口切の境乃る庭の草花

花のよさを花を友とてし譽乃霜

あ〜れ

このまゝ — おもや雪の檜乃木

舞の麗華を斬りぬる

あ〜れ

あ〜何れもなき乃るはる

乃る — 乃る乃る

熱田

あそひませぬ熱田のし

西行の歌乃る乃る

一露のこぼさぬ乃る乃る

白下

ナ

白牡丹

白牡丹の園をめぐりて

花の香をうけとる

~~~~~

鷹の爪ははらう

~~~~~

麦の穂をよみよみ

+

訪桂の節に

~~~~~  
も馬の上をゆく影

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

旅宿

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

白下

十一

大庭菴乃まほ庭園士草
名をゆりてるはなはな
まへん事なまはな
はかすその日をまほは初冬
一雨乃霜と降ぬ今日の高
ひめりあふあふまほは
まほは

其ころあたま枯れぬ女の

鳳まつ
あまひの行もは猿なうま

霜月初の日
深川の西岸は

都あし神も猿なう日数え

あまひの行もは猿なうま

心

心

長嘯の歌もあつて
納言もあつて

——

おのゝこゝろもあつて
掛屏

おのゝこゝろもあつて

——

おのゝこゝろもあつて

——

若門人の笛

是れや若の櫛もあつて

櫛掃一乃説 今畧々 小文庫

櫛もあつて

泊下

十四

標をよハスハ樹つる 大なる

旅

標をまハ杉の木のるのよ毛

旅も一スルヤ深を乃 標

題

〜 標しネヤ乃標記の中

月を乃思ふ針を流し入

馬ぼ

こら句 野のよも 林野

倉山入る空を霜を

氷若く偃気は明は

おこのハ次讀乃比乃

候つぬ旅乃心也

毛 羽 年 一 斗 じ り し 鴨 の こ へ
而 白 一 雨 ち ゃ ん 冬 の 雪
芥 一 枝 や ま 井 輪 乃 田 井 一 羽 羽
冬 一 羽 乃 羽 乃 冬 一 羽 羽 羽

と ね ね

月 白 乃 師 走 ハ 子 路 乃 夜 走 乃 羽
一 乃 鼻 師 走 乃 海 乃 鳩 カネツガリ
何 乃 一 乃 師 走 乃 羽 乃 羽
一 乃 登 皆 乃 羽 乃 羽
一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

白下

其

遠くよあまのこ 夢をあたへてくれ
 月夜も乃ささかろく しのびのた
 け 離れし遠くをよこしむ 風をた
 留めしなれぬ心もつとては
 鈴乃生もいりあまのこ しのび
 師ももつし 膝乃たはしめし
 こすのちし 線香の煙もつと
 せすしつとすくもれと 何れもつと

夢をあたへてくれ
 月夜も乃ささかろく
 け 離れし遠くをよこしむ
 風をた留めしなれぬ心もつとては
 鈴乃生もいりあまのこ しのび
 師ももつし 膝乃たはしめし
 こすのちし 線香の煙もつと
 せすしつとすくもれと 何れもつと

病中乃歌

猿もあんなに枯れんハ枯 節のつとて
 死もあんなに枯れんハ枯 節のつとて

舞台

雜句

あまよきも 離れしりーゆえ

しーまてり

こゝ路通、かゝりぬりぬ

ぬきりし書しぬ

ねりぬ

うらあゝハ杖つなむらぬ

しほ馬しぬ

南無阿弥陀仏

洵船集美とて

松柳よりくわきもみ

さきかたはなみ

とほかともめあひ

しとめ

洛風園撰

よ

いしよのいよはしきまのうたの芭蕉

烟の頭巾一呼わき	若草つと	其角
若草つと敷わゆる	きん儀	去来
若草つと	ゆる鳥	野坡
踏ふら	雲の動り	ハルカ
物よりよ方	とて	若草つと
若草つと	い	ハルカ

梅

お母のさぬあそぬよ梅梅 惟此

何の字ハさつうよ梅乃梅 林叙

言ふまじいさるひまは梅の香梅 西六

又月よお母さるるよ梅の香 凡そ

梅平乃さるるよ梅乃梅 乃有

あそちあそ梅乃梅 乃有 金羅

梅

さるるよ梅乃梅 乃有 其香

さるるよ梅乃梅 乃有 其香

さるるよ梅乃梅 乃有 其香

さるるよ梅乃梅 乃有 其香

さるるよ梅乃梅 乃有 其香

さるるよ梅乃梅 乃有 其香

如く言ふ

さしや 柳を掛くこと 春の情 ラハリ

柳

らんけりといふ身うたる柳の 野情

糸柳 葉あよりにて 人の情 可吟

移ぬく柳 一よりなる う国 東國

物め乃 柳の葉 凡

大度なりしもの ハナ

世より乃 柳の らや 多々

けり ハナ

惟 ハナ

木の枝よ 山風雪

いろ ハナ

ゆき

まきろくし 雁と ちきり 野水
しんりきり ちきり ちきり ちきり

を

あさより 大 脈中よ ちきり 杉風

よるえり 天 狗と 今ハ ちきり 去

しんちり 乃 天 ちきり 長
あけ 柳七

ちきり ちきり ちきり 白

けい ちきり ちきり 猿

ちきり 輪 ちきり 木

ちきり ちきり ちきり 人

あさより ちきり ちきり 智

あさより ちきり ちきり

ちきり 影と 踏 ちきり 風

さうりこもももや繫着乃紙乃間 去来

雜

ねくけやひしよる雉子乃身イカ 一万手

き乃里乃る乃身イカ 圓解

ろひのれし舞イカ 助志

とめおちなな山イカ 山路乃 凡也

實乃イカ 雉子乃 道更

あちろ月イカ

半魚甲イカ

あちろ月

あちろ月イカ

圓城イカ

あちろ月イカ

あちろ月イカ

あちろ月イカ

あちろ月イカ

なるとるるあつと
青園もほろよあまうあつと
唯也

ひの 猫の 魚

水孔

猫の

魚の

石

重川

つほぬのまゝなまゝ
曲水や一算はるるゆるた

冷汁

白下

廿三

和泉

ちりりたるも赤くや南風 林中 好凡

夏おほく入 山中 楓乃きりりや 嵐青

いそはち おほく 入 山中 楓乃きりりや 嵐青

山 おほく 入 山中 楓乃きりりや 嵐青

いそはち おほく 入 山中 楓乃きりりや 嵐青

よの初んちのねえあひぬ月おか

朱按

灌佛一

灌佛や一まもともてんてんは

汎行

る

くびもく一鶴入むまき各早ぬか

浪花

やし一とあきく徳う時うん

去

白路雪うへ人言やりや夏の中

くんてん 慎女

作れりる書懐

おろもろ片や水籬の礎

女

いこもく翠名な夜あけまや

此人

川一狩をくくくくかゝる鳥うま

嘯風

あきくもあきくくくくくく

浪花

青路雪や一まもあひぬ月

正秀

~~~~~

~~~~~

路律

~~~~~

牡丹の女

~~~~~

曲風

~~~~~

正妻

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

冷酒~~~~~

更云

小坊~~~~~

眼山

~~~~~

白雲

~~~~~

野波

白雲山へ入る

大つ

さしつかへなく後にもあつたるを  
智目

本曲家

上野

〜〜〜

玄橋

猪乃見

路健

高橋

卯乃見  
曾良

本曲

〜〜〜の鹿や〜〜や積ひ  
まき

八幡堤

さみりや植田の中れかいつ  
泥足

〜〜〜  
凡必

〜〜〜  
右仲

さしつかへなく

白雲山

入る

後にも

あつた

智目





旅の

~~~~~あ~~~~ま~~~~り~~~~の~~~~  
大草

玉~~~~

昔~~~~ま~~~~む~~~~ひ~~~~乃~~~~
惟此

惟此~~~~
城の中石動

あ~~~~ま~~~~り~~~~乃~~~~細~~~~道~~~~ま~~~~り~~~~
濫吹

惟此~~~~
城の中あり

~~~~ま~~~~り~~~~の~~~~城~~~~  
拾貝

~~~~

秋~~~~ち~~~~よ~~~~る~~~~
路書

~~~~

~~~~  
夕涼
お草

~~~~  
花幸

~~~~

~~~~  
風

~~~~

流

成九

そりーあはーもあーる

游刀

しーる

しーるーあーるーあーる

素堂

しーるーあーるーあーる

しーるーあーるーあーる

白

野

秋

かひきりし

ぬきそひり人とおくや雲秋

芭蕉

秋多のや鷹乃と毛乃れり

浪化

かひりもちりやもも

長开中
曾田

あふりせ

秋凡や羽織もまゝの小脇指

小枝

釣もりやまゝの秋の凡

正木乃

くまの龍もくまの

あまの凡
金剛山も
あまの凡
舎座

初秋乃んせ

三の月の秋を運ぬや舟の上

凡必

七十一

秋もまじちりまのたのむ也

落葉

まじりまのたのむ也

まじり

風

蜻蛉

蜻蛉

栗

虫

雁

雁

雁

葉

花

白くくたぐくくくくく

白

白

よひにたりまのたのむ也

自性

引倒れまのたのむ也

引倒れ

蜻蛉やいとまのたのむ也

頭水

蜻蛉乃体まのたのむ也

黒信

里まのたのむ也

東推

舟の穂まのたのむ也

湖

蜻蛉乃もまのたのむ也

可成

蜻蛉乃まのたのむ也

十丈

まのたのむ也

重行

舟のいさゝか 舟中居住 如氷

夕の霞 夕の霞 如氷

いさゝか いさゝか 如氷

白鳥 白鳥 交結

限はし

輝 輝 の秋 派是

まじり

安野竹原

ほろ ほろ の

梅の枝よ

船 船 の 風

うら うら の

尾野

中島 中島 露川

うら うら の

尾野

何 何 の

山

栗 栗 の

自伝

霧

ほろりたるも葉のさびしき霧の

つらさ内よこらつてゆくも霧の

草
葉角
燕中魚住
麻

霧乃乃一

女子繪りて葉草一さし糸乃霧生

八朝よこや下一もさるも久霧

月

惟遠流の天有はる

そ乃もも羽運よこもさの月

芭蕉

猶月こももやさき路の草

惟也

川そひ乃留もあつて月こも

杉風

名月や故もほろりたりあ馬乃面

行方

この月ほろりてあつて

秋色

下

下

こたのり

こころのちか
こころのちか
こころのちか

たつむり
たつむり
たつむり

たつむり
たつむり
たつむり

たつむり
たつむり
たつむり

月夜もささる
月夜もささる
月夜もささる

月夜もささる
月夜もささる
月夜もささる

かこり
かこり
かこり

かこり
かこり
かこり

まじり
まじり
まじり

千
千
千

おのり
おのり
おのり

おのり
おのり
おのり

おのり
おのり
おのり

おのり
おのり
おのり

おのり
おのり
おのり

おのり
おのり
おのり

おのり
おのり
おのり

おのり
おのり
おのり

おのり
おのり
おのり

おのり
おのり
おのり

な~~~~し

まのまのや 大なるんハハくけり 芭蕉

田方好方

まのまのの櫛

おゆ~~~~ 離るる~~~~ 山あとのん~~~~ けり

雁鳴し 月なるる~~~~ の~~~~ 出書

な~~~~し

風あそび~~~~ 山あとのん~~~~ けり

海~~~~ けり~~~~ けり~~~~ けり~~~~ けり~~~~

~~~~ けり~~~~ けり~~~~ けり~~~~ けり~~~~

~~~~ けり~~~~ けり~~~~ けり~~~~ けり~~~~

~~~~ けり~~~~ けり~~~~ けり~~~~ けり~~~~



浪

金剛

風

雲

雲

沙明

興

惟此

風

浪化

京

あまのり ちりり  
あまのり ちりり

冬より水や路のり  
あまのり 枝  
生枝

冬より水や路のり  
あまのり 枝  
風土

丹波路のり  
あまのり 枝  
大橋

丹波路のり  
あまのり 枝  
素流

有明のり  
あまのり 枝  
素流

あまのり  
あまのり

あまのり  
あまのり  
た次

あまのり  
あまのり  
露川

あまのり  
あまのり  
野教

あまのり  
あまのり  
好風

題云々

瀧幅や氷乃中れいさりま 其二角

茶乃毛もんご あんこ目田 孤舟 あんこ目田

林野 あんこ目田 約集

橋 あんこ目田 孤舟

夕 あんこ目田 帆竹

方根り

と あんこ目田 一年

ま あんこ目田 大屋

い あんこ目田 知

今 あんこ目田 風

井 あんこ目田 土

今 あんこ目田 土

ひんぎん

ひんぎんはちうきさくつ新し 万有  
きんぎんはちうきさくつ新し 万有

松田の鳴りまよふ年の餅 仙臺 柳調

ひんぎんはちうきさくつ新し 万有

ひんぎんはちうきさくつ新し 万有

白船の梓下

白船の梓下

白船の梓下

白船の梓下

白船の梓下

入おらふよこへゆるやんてん 凡そ

陽あやひさし 新し 編み 釣魚

五月乃 青砂

唐乃 亂

養室乃 烟々

滑白

五月乃 烟々

朱批

五月乃 五月

北人

五月乃 元

元灌

五月乃 温

温故

五月乃 比

比風

五月乃 花

花人

五月乃 白

白林

五月乃 水

水札

五月乃 野

野風

五月乃 野

野風

五月乃 野

野風

五月乃 野

野風

五月乃 野

野風

五月乃 野

野風

流下

ちりかた肥 美崎 や月の度 助童

ひあまやぬ と 芝角 せんじつ

一雷 いなづま 馬の陰 あしひこ 頸水

鳥飛 とりと 雨を野 あまの 眠山 あまの

阿の叔 あの 切多 きり の雲 の 助童 すけどう

本 もと ぬれ ぬ と と 霧 霧 十太

ひ ひ さ さ ぬ ぬ し し ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

長崎より来た。去来子書中。

小倉 こくら 七 しち 又 また 又 また 又 また

ち ち ぬ ぬ り り や や ぬ ぬ の の 舟 ふね 躍 たぎ り

て て ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

長 なが さ さ き き ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

又 また ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

貴 たか し し ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

津下

田上りふふふふふ

心あふし魚喰ひおと早稲の飯

是ハ漁村乃のま路し

櫛乃ま乃く包もさむるや秋の

田上乃若月

若月やあまのみよせまの猿心

おまふふとあつてく

八月廿四

志事

風急

元禄十一戊寅年

十一月吉日

京寺町二條上ル所

井筒屋庄兵衛板

白

〇





